

## 1 各地区での取り組みと課題の整理

平成8年度に社協が策定した第1次地域福祉活動計画の地区社会福祉協議会構想に基づき、地域では住民主体の地域福祉活動の推進組織として、地区社協と町内福祉委員会の設立と活動の推進が進められてきました。

この取り組みも平成20年度で12年目を迎えて、数々の優れた活動事例も生まれており、地域住民による地域に根ざした地域福祉活動が定着しつつあります。

しかしながら、地域には未だ多くの福祉課題や生活課題が存在しているのも事実です。このため、地域会議や町内ごとの会議を通して、課題の抽出と地域の福祉活動の方向性を整理し、町内福祉委員会ごとにそれぞれの町内特性などにあった活動計画づくりを進めています。そして、町内福祉委員会活動を推進するため、地域の現状と地域の福祉活動の方向性を踏まえた、地区社協が行うべき支援を整理しました。

## 1 町内福祉委員会の機能強化に向けて

### 1 町内福祉委員会の現状

町内福祉委員会では、ふれあい昼食会、ふれあいサロンなどを始めとしたふれあい活動や地域での見守り活動、福祉支えあいマップ作りなど、様々な活動が行われています。地域によってはボランティアグループや町内会役員OBや学生などの参加を得て、福祉・防災・環境と一体となった取り組みをしているところもあります。

同時に、地域によって構成メンバーや活動内容は様々です。こうした中で、地域福祉活動を推進する中で分かってきた様々な課題や、活発な活動をするための要素を整理しました。

#### ◆ 課題の整理

- ・ 構成メンバーが他の役との兼務が多く、実働メンバーの確保が難しい

町内会役員や老人クラブなどの団体役員が町内福祉委員会の中心となっていることが多いため、それぞれの活動で忙しく、町内福祉委員会活動としての活動に多くの時間を割くことが難しいのが現状です。

- ・ 定期的な会議の開催をするのが難しい

定期的な会議の開催がされていなかったり、開催されていても行事の打合せが会議の中心になるなど、福祉課題について話し合われていない町内福祉委員会が多くあります。

- ・ 一人ひとりの困りごとを助け合い活動につなげるのが難しい

ふれあい昼食会、ふれあいサロンなど、町内でのふれあい活動の取り組みは進んできましたが、そこから助け合い活動への移行がなかなか進んでいません。また、ご近所の困りごとや困っている人の課題に取り組むことへの認識が十分ではありません。

## ◆ 活性化の秘訣

活動が活発な町内福祉委員会には、次のような共通点がありました。

- ・ いろいろなグループのメンバーの取り込み  
町内会や団体の役員だけでなく、ボランティアグループなどいろいろなグループのメンバーが入り、その中でも元気なグループが実際の活動の中心となっている。
- ・ 会議内容の工夫  
会議の定期的な開催に努めるとともに、会議では、実際の活動者を中心にした、町内の福祉課題にも踏み込んだ話し合いをしている。
- ・ ニーズを把握している人から話を聞く  
役職や肩書きや性別に関係なく、地域で実際に動いて、課題やニーズを把握している人たちが、町内福祉委員会に参加して課題やニーズを伝えている。

## 2 町内福祉委員会の活動のあり方の見直し

## ◆ 住民の困りごとに対応できる町内福祉委員会に向けて

町内福祉委員会の「一人ひとりの困りごとに対応できていない」という課題については、個別の福祉課題への対応は「行政のやること」「民生委員児童委員の仕事」で、「町内福祉委員会は住民の意識啓発を目的としたふれあいの行事をするところ」という認識で活動を進めてきたことが原因のひとつとしてあげられます。

しかしながら、「助け合いのできる町内」を構築していくためには、やはり「ふれあいのある町内」をつくることから始めざるえないこと、普段からお互いが声を掛けあえる町内をつくっていくことからしか道は開けてこないことも分かってきました。

今後は、困っている人を助けることができるご近所づくりを目指して、「ふれあいの行事」から「ご近所での助け合い」に発展させていく取り組みが、町内福祉委員会活動に求められています。

## ◆ 住民のすべての営みに「福祉」の味つけを

町内会の行事も、少し要援護者への配慮や手助けをすること、会場をバリアフリーにすることで、今まで参加できなかった方々が参加でき、ともに楽しめることも分かってきました。特別な行事を行わなくても、町内会行事そのものを福祉活動にしていくことが可能であり、少ない負担で、効果が得られます。

今後は「いつでも福祉、いつでも防災」の発想で、町内の様々な活動の中に少しずつ福祉のエッセンスを加えていくことが町内福祉委員会に求められており、この実践を積み重ねていくことにより、住民総参加の福祉の実現が期待されます。

## ◆ 町内会との関係

新しい住宅やマンションの建設が進む中で、町内会に加入しない住民も増えてきました。このため、町内会に入っていない住民には、町内会や町内福祉委員会の情報が伝わらず、活動に参加できない状況が生じてきています。しかし、福祉や防災は、その町内に住むすべての住民の課題です。

今後は、町内会と町内福祉委員会との関係について、それぞれの町の規模や地域資源、人材や活動状況を考慮しつつ、町内会と密接な関係を持ちながら、きめ細やかな活動がしやすい組織としての位置づけを検討していくことが必要となってきました。

それと共に、地域福祉の推進を通して、より多くの住民に町内会の魅力が伝わるような活動の活性化を目指します。

## 2 地区社会福祉協議会の役割

地区社協は、地域福祉推進の中核となる町内福祉委員会の機能強化に向けて、それぞれの地域性や活動の進み具合などの実情を踏まえた支援を行っていくことが必要です。

## ◆ 活動の前線部隊の育成と支援

町内福祉委員会の機能の強化に向けて必要な「一人ひとりの困りごとへの対応」を可能にするため、実際に活動できるグループや人材の発掘と育成、活動の支援を行っていきます。

## ◆ 難問ケースの解決に向けての支援

未解決になっている課題には、町内だけでは解決が困難な難問ケースが多数あります。この難問ケースについては、地区社協が地域の窓口となり、在宅介護支援センターや地域包括支援センターをはじめ行政の関係部局を含めた関係機関による専門的なサービスにつないでいく役割を担い、難問を放置しない体制づくりを進めます。

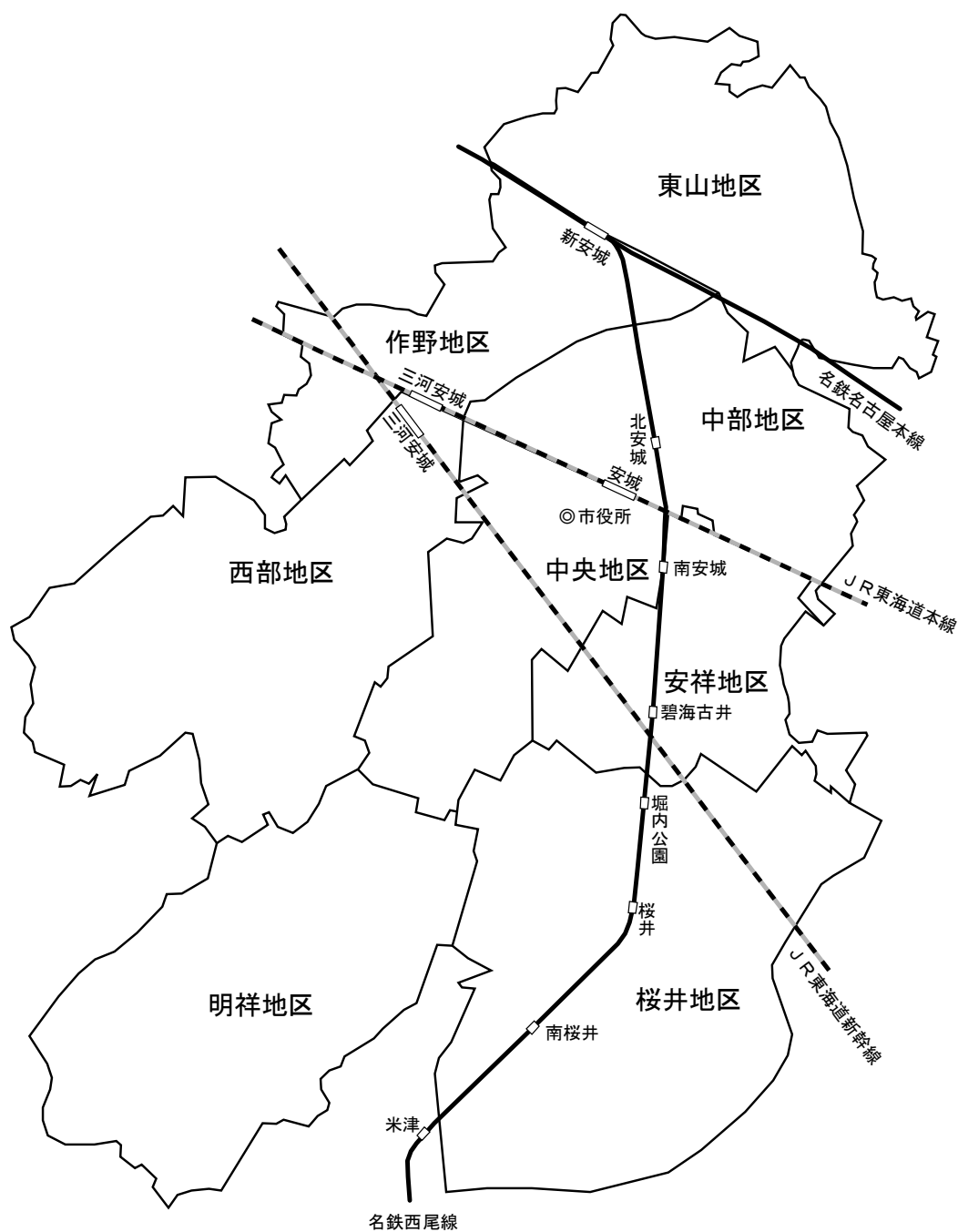
## ◆ 町内間の情報交換・交流の支援と共同の事業展開

各町内福祉委員会活動の活性化に向けて、他の町内の活動についての情報を収集し、勉強会の開催、地区社協だよりへの掲載、個別の助言指導などにより、町内福祉委員会相互の情報の交換や交流に努めます。

また、単独の町内では解決がむずかしい課題や、同じ課題を抱えた他町内と共同で展開した方が効果的な事業については、共同事業として実施されるよう働きかけます。

## 2 地区ごとの福祉活動の推進

各地区での取り組みと課題の整理において記載した内容を踏まえたうえで、地区社協の区域（第2次福祉圏域）ごとの地域特性や地域の課題、今後の取り組みをまとめました。



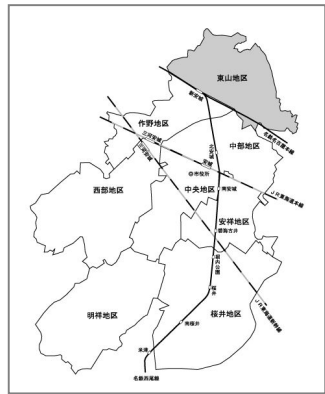
## 東山地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

東山地区は、安城市北部に位置し、名鉄名古屋本線以北から豊田市、岡崎市の市境までの区域です。安城北部小学校、里町小学校、志貴小学校を校区とする10町内会で構成されています。

地区は、名鉄新安城駅を中心として発展した市街地と、旧東海道に沿ってできた集落及び北部の農村地帯より成り立っています。



#### (2) 地区の現状



東海道の松並木が残る東山地区の風景

昭和40年頃に大手自動車部品メーカーの工場や井畑、石橋の住宅団地が造成され、また、近年においては、区画整理事業の進展により新たな住宅地や高層マンションも目立つようになってきました。井畑、石橋の両団地では、入居世代が高齢化し、その子、孫世代の多くが団地外に転居するなどして、団地の高齢化率は40パーセント近くに達しており、高齢者問題への取り組みが急務となっています。一方、宅地開発や高層マンション等の建設に伴い若い世代の流入が進む地域では、自動車の部品狙いや車上狙い、

新安城駅周辺の自転車盗難などの犯罪が多くなっており、地域の安全な環境の確保が必要とされています。

#### 地域の状況

| 町内会名                           | 町内福祉委員会名                                                                           |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 里、井畑、石橋、橋目、柿碕、尾崎、宇頭茶屋、浜屋、東栄、今本 | 里町福祉委員会、井畑福祉委員会、石橋福祉委員会、橋目町福祉委員会、柿碕町福祉委員会、尾崎町福祉委員会、宇頭茶屋町福祉委員会、浜屋町福祉委員会、東栄・今本町福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 23,025 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 4,138 人(18.0%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 3,420 人(14.9%) |
| 2 世帯数          | 8,427 世帯       |
| 3 町内会数         | 10 町内会         |
| 4 要援護登録者数      | 339 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 193 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 112 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 34 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 201 人          |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・市役所出張所(1)            |
| ・保育園(2)、幼稚園(3)、小学校(3) |
| 中学校(1)                |
| ・医療機関(4)、歯科(8)        |
| ・福祉センター(1)            |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・介護老人保健施設(1)          |
| ・介護サービス事業所(10)        |
| ・障害者サービス事業所(0)        |
| ・公民館(1)               |

(平成20年10月1日現在)



### （３）町内福祉委員会の活動状況

東山地区では、地区社協が平成9年に設立されたことから、平成9年から10年にかけて10町内会すべてにおいて町内福祉委員会が設立されました。町内福祉委員会は、市内で最も早い時期に設置されましたが、町内会の役員が福祉委員を兼ねている町内が多く、町内会と町内福祉委員会の活動が明確に区別されていないところがほとんどです。

町内福祉委員会の活動としては、ふれあいサロンや昼食会、世代間交流事業などのふれあい交流活動が主となっていますが、健康体操や介護教室などの予防事業も行われています。中には福祉マップを作成して見守り活動を実施したり、広報紙を発行して各種情報を住民に発信している町内福祉委員会もあります。

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 町内会と町内福祉委員会の活動区分が明確化されていない。
- ・ 町内会組織と町内福祉委員会が同一のため、福祉を中心とした話し合いができない。
- ・ 町内福祉委員会が町内会行事をこなすだけの活動となっている。
- ・ 町内福祉委員会の活動は各グループの個別活動が主となっており、役割分担もない。
- ・ ひとり暮らし高齢者等要援護者の把握が困難になっている。
- ・ 福祉委員が少なく、役員だけの活動となっている。
- ・ 福祉委員の構成に偏りがある。



地域会議（北部福祉センターにて）

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 支援が必要だがなかなか受け入れてもらえない人への対応が難しい。
- ・ 子どもを虐待していると思われる家庭に対する支援がされていない。
- ・ 障害により行事等に参加できない人への支援をしていない。
- ・ 老人クラブに入っていない人への支援ができない。
- ・ 独身の息子と病弱な高齢者だけの世帯の今後が心配である。
- ・ ひきこもりの人への支援がされていない。



町内福祉委員会での会議（志貴4町合同）

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 女性の活動者が少ない。
- ・ 活動を実行する組織がない。（活動グループの発掘や育成を怠っていた）
- ・ 公民館がバリアフリーになっていないので、障害のある人や足腰の弱った高齢者が利用できない。
- ・ 公民館が開放されていない。

#### その他の課題

- ・ あんくるバスのバス停が遠い。
- ・ 国道1号線と名鉄の踏み切りを渡ることが高齢者にとっては危険をとまなう。
- ・ 市街地は、スーパーやコンビニができ便利になったが、周辺部では店舗がなくなり高齢者が歩いて買い物に行けなくなった。
- ・ ゴミだしのマナーの悪い人への対応に困っている。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 町内福祉委員会を町内会とは別組織として確立して活動する。
- ・ 町内役員推進型から福祉委員主導型にする。
- ・ 組長を町内福祉委員会に取りこみ、情報の収集や発信機能の強化を図る。
- ・ 町内福祉委員会組織を明確化し、課題ごとにグループの役割分担を明確にする。
- ・ 活動への住民の積極的な参加を呼びかけ、地域住民の交流を図る。
- ・ 福祉委員を地域の幅広い層から選出し、いろんな意見を積極的取り入れた活動とする。
- ・ 町内の専門家を発掘し、勉強会を開催する。
- ・ 積極的に他地域との交流会を実施する。
- ・ 要援護者への見守り活動を充実する。
- ・ 普段ご近所で何気なく行っている活動を町内福祉委員会で支援する。

#### 多様なサービスに関する取り組み

- ・ 困りごとが発信しやすい環境づくりを進める。
- ・ 資源回収時に高齢者や障害のある人の世帯に対して、分別や荷造り等を手伝う。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ ご近所の世話焼きさんを掘り起こす。
- ・ 町内公民館の拡張について、市に協力を依頼する。
- ・ 買い物代行ボランティアを養成する。

#### その他の取り組み

- ・ 高齢者へ交通安全の啓発や旧国道沿いの通行、横断の見守りを行う。

### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                                   | 実施施策                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 地域の誰もが自由に地域の課題や生活の悩みを出し合える環境づくりを支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各町内会との連携を深め、町内各層、各世代の声が反映されるような町内福祉委員会のあり方を共に考える。</li> <li>地域のより多くの人に福祉への関心を持ってもらうため、広報紙による啓発を行うとともに、講演会、勉強会を開催して人材の育成を図る。</li> <li>地域の誰もが気兼ねなく参加でき、悩みが出し合えるような行事計画づくりを支援する。</li> </ul>                                      |
| 2 | 高齢者など誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくりを推進します。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の孤独死防止のための先進的な活動を調査・研究し、地域の見守り活動に取り入れる。</li> <li>災害時要援護者支援制度による高齢者等への支援を、災害時だけでなく、日常の生活の中に取り入れた活動を民生委員児童委員、町内福祉委員会と連携して進める。</li> <li>普段の町内活動に併せて、高齢者の見守りや生活援助を行う活動を地区の助成事業の中で積極的に支援する。</li> <li>介護(予防)講座を開催する。</li> </ul> |



町内福祉委員会での介護教室（井畑）

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月28日 51人出席（男性41、女性10）

7月19日 44人出席（男性31、女性13）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計7回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。



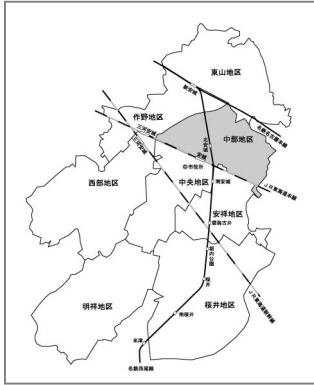
## 中部地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

中部地区は JR 安城駅の北側から名鉄本線の間東側に位置し、安城北中学校区（今池小学区を除く）の13の町内会で構成されています。

古くから農業を中心に栄えてきた地域と JR 安城駅を起点にした町工場、個人商店街が連なる地域があります。また高齢化率が40%を超えた超高齢化した分譲住宅もあります。



#### (2) 地区の現状

近年は大型スーパーや高層住宅も建設されるようになり大都市のベッドタウンとして転入者も増えています。地域の福祉環境としては民間福祉団体やNPO法人の拠点や施設が数ヶ所あり、地域住民がボランティアとして支援している団体もあります。

防犯、防災に対する関心は高く、町内行事や日常生活の中で無理のない活動展開をしています。これらの活動に情報交換や見守り活動、福祉意識啓発の場としての機能を持たせる取り組みも始まりつつあります。



田園風景と住宅、高層マンションが共存する中部地区の風景

#### 地域の状況

| 町内会名                                            | 町内福祉委員会名                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 池浦、新田、西別所、東別所、別郷、別所団地、北山崎、高木、大岡、山崎、明治本町、昭和町、大東町 | 池浦町福祉委員会、新田連合福祉委員会、西別所町福祉委員会、東別所町福祉委員会、別郷町福祉委員会、別所団地町内会福祉委員会、北山崎町福祉委員会、高木町福祉委員会、大岡町福祉委員会、山崎町福祉委員会、明治本町福祉委員会、昭和町福祉委員会、大東町福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 21,289 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 3,401 人(16.0%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 3,882 人(18.2%) |
| 2 世帯数          | 8,106 世帯       |
| 3 町内会数         | 13 町内会         |
| 4 要援護登録者数      | 441 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 259 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 152 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 30 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 228 人          |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・保育園(5)、幼稚園(2)、小学校(3) |
| 中学校(1)、高校(2)          |
| ・医療機関(9)、歯科(5)        |
| ・福祉センター(1)            |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・特別養護老人ホーム(1)         |
| ・介護サービス事業所(13)        |
| ・障害者サービス事業所(7)        |
| ・障害者通所授産施設(1)         |
| ・障害者通所更生施設(1)         |
| ・精神障害者小規模通所授産施設(1)    |
| ・公民館(2)               |

(平成20年10月1日現在)

### （３）町内福祉委員会の活動の活動状況

町内福祉委員会は13町内会すべてに設立されており、町内福祉委員会ごとに学習活動、見守り・支援活動、広報活動、ふれあい活動に取り組んでいます。その中でもふれあい活動が活発に行われており、ふれあいサロンを定期的を開催して参加者の健康管理や仲間づくり、福祉情報の提供に努めています。

地域ボランティアグループが結成されている町内では、グループを中心とした住民の自主的な活動が展開され、日常生活支援や学習活動、広報活動が行われています。



児童クラブとの交流（大東サロン）

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 昼間留守世帯が多く空き巣被害がある。
- ・ 隣組のつながりが薄れてきた。
- ・ 町内役員が福祉委員を兼務しており、役員だけが活動している。
- ・ 福祉の対象を町内会会員に限定している。
- ・ 町内行事への関心が低くなってきた。

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 災害時要援護者支援制度の支援者が見つからない。
- ・ 老親を呼び寄せて一緒に暮らしている世帯があるが、町内に連絡がないので状況が把握できない。災害時の支援対象から抜け落ちてしまうので心配である。
- ・ 家族が認知症であることを隠しているので支援ができない。
- ・ 認知症で一人暮らしの人が自転車で行動していて危険である。
- ・ 障害のある人を支援したいが、家族が情報を出さないので、プライバシーの問題があり支援できない。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 町内会や老人クラブを脱退する人が増えている一方で、役員のなり手がいない。

#### その他の課題

- ・ 危険な通学路、集合場所がある。（確認しづらい交差点、自転車の飛び出し、木が茂って外から見えにくいなど。）
- ・ 分別していないゴミが出されるので町内役員が片づけている。
- ・ 子どもが安心して遊べる場所がない。
- ・ 高齢化が進んでいる地域がある。
- ・ 一人暮らしの人の転居や死亡により空き家が増えてきた。



町内の福祉団体の行事でボランティア活動（池浦町）

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 町内行事に自力で来られない人は、近所の人や福祉委員が送迎する。
- ・ 町内行事で炊き出しや、消火訓練等防災訓練を行う。
- ・ 支援が必要な人には近所の人やボランティアで支援チームを立ち上げる。
- ・ 町内行事を通して町内会、子ども会未加入者への入会を促進する。
- ・ 防犯パトロールは見守り活動も兼ねて行う。
- ・ あいさつ運動を展開して防犯に努める。
- ・ 障害のある家族がいることをオープンにできるような環境をつくり、まずは隣組から支援を始め町全体でバックアップしていく。
- ・ 地域の見守り、支え合いを進めるために防災・福祉支え合いマップを作成する。
- ・ プライバシーの問題は「命が大事」と理解してもらう。
- ・ 事業お手伝いボランティアを募集する。
- ・ 高齢化が進んでいる地域は、隣近所、高齢者どうしでの助け合いを進めて行く。
- ・ 認知症についての勉強会を開催して、支援の必要性を理解してもらう。
- ・ 災害時要援護者支援制度を利用して緊急時の連絡先を把握し、見守り台帳を作成する。連絡会を開いて支援者に役割を理解してもらう。



福祉教室（別所団地）

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 会場（町内公民館）をバリアフリーにしたい。
- ・ 町内福祉委員会のメンバー構成を見直し、女性の力を活かしていく。
- ・ 町内役員OBに活動への協力をお願いする。

### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                               | 実施施策                                                                                                                                                                                         |
|---|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 安心して暮らせる町づくり活動に住民全体で取り組めるように支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で取り組める見守り、支援活動を提案していく。</li> <li>・住民だけでは解決困難な事例は関係機関と連携して取り組めるように体制づくりを行う。</li> <li>・町内行事や町内福祉委員会活動等さまざまな機会を利用して福祉、防犯、防災の情報提供、啓発を行う。</li> </ul> |
| 2 | 地域福祉活動を特定の人の活動から“みんな”の活動にしていきます。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内住民が自由に出入りでき、困りごとを話し合え、また住民どうしの学び合いの場となる拠点づくりに努める。</li> <li>・活動の協力者となる人材の発掘に取り組む。</li> </ul>                                                        |



町内福祉委員会での会議（北明治地区）



構成員向け研修会（地区社協事業）

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月19日 65人出席（男性49、女性16）

7月11日 64人出席（男性45、女性19）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計25回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。



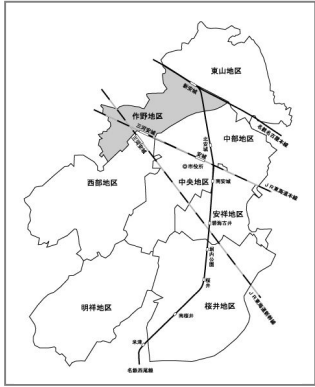
## ■ 作野地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

安城市の北西に位置する作野地区は、10の町内会で構成されており、その中でも連合町内会組織があるため、3つの中学校区にまたがる最も人口の多い地区となっています。

名鉄新安城駅、JR 三河安城駅が地区内にあり、交通の便が良く、人口が急激に増加しています。田畑の残っている地域もありますが、全般的に宅地化が進行し、昔からの自然環境は失われつつあります。巨大なマンション群だけで構成されている自治会もあります。



#### (2) 地区の現状



大型スーパーとマンション、戸建て住宅  
が立ち並ぶ作野地区の風景

交通の便が良くスーパーや商店、病院、銀行などの社会資源も充実しているため、人口が急激に増加し、各町内の人口規模も大きくなっています。住民の入れ替わりも多いため、従前から地域に住んでいる住民と新住民との交流が図りにくく、また、外国人や母子世帯、夜勤労働者、独身世帯など多様な世帯が混在するため、生活様式や生活時間帯等も様々で、住民どうしの関係希薄化、住民のマナーの悪化、治安の悪化が進行しています。

#### 地域の状況

| 町内会名                                           | 町内福祉委員会名                                                                   |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 今池、住吉、J-7 野村新安城、篠目、井杭山、二本木、美園、二本木新町、緑、依佐美・美園住宅 | 今池町福祉委員会、住吉町福祉委員会、コープ野村新安城福祉委員会、篠目福祉委員会、井杭山町福祉委員会、二本木連合福祉委員会、依佐美・美園住宅福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 38,091 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 7,197 人(18.9%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 4,070 人(10.7%) |
| 2 世帯数          | 14,435 世帯      |
| 3 町内会数         | 10 町内会         |
| 4 要援護登録者数      | 542 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 281 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 211 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 50 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 316 人          |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・保育園(4)、幼稚園(2)、小学校(4) |
| 中学校(1)                |
| ・医療機関(22)、歯科(16)      |
| ・福祉センター(1)            |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・介護サービス事業所(9)         |
| ・障害者サービス事業所(5)        |
| ・公民館(2)               |

(平成 20 年 10 月 1 日現在)



### (3) 町内福祉委員会の活動状況

地区内には10の町内会があり、6つの町内福祉委員会と1つの連合町内福祉委員会が設置されています。

地区内の町内は、人口の多い町内が多く、町内福祉委員会で個人への対応を検討することが困難な面があることから、ふれあいサロンや勉強会、お茶会やふれあい昼食会などの開催に力を入れ、高齢者や子どもの居場所づくりと、孤立しない近所づきあいの構築を目指しています。

また、駅や繁華街が近く、犯罪の多い地域であるため、スクールガードや防犯パトロールといった活動が盛んです。災害時要援護者支援制度に登録していない要援護者の把握を進める町内もあり、防犯・防災に対して危機意識を持って取り組みを始めた町が増えてきています。



篠目町福祉委員会サロン

### (4) 地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 新住民の入れ替わりが激しく、治安が心配である。
- ・ 地域がバラバラで住民の連帯感、関心が低い。
- ・ 転入世帯と地元の年配者との交流が無い。
- ・ 外国人労働者が多い地域で、コミュニケーションが難しい。
- ・ 高齢化が進み、各種役員のなり手が少なくなってきた。
- ・ 役員が回ってくると子ども会を脱会する家庭が増えてきた。
- ・ ボランティアの意志は感じるがまとめるシステムが無い。
- ・ 昔からの住民はいろんな事業に積極的に参加しているが、集合住宅の住民が参加しない。
- ・ 大きな集合住宅なので、災害時に避難所に入りきれない。
- ・ 転入者は何もわからないので、町内会側から加入の説明に来てほしい。

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 高齢者で外にでかけられなくなる人や、ゴミを出せなくなる人がいる。
- ・ 働いているお母さんが多いが、その間の子どもが何をしているか心配である。
- ・ 外出が難しい人の送迎をしてくれる人がもっと増えて欲しい。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 定年退職後の人をうまく地域活動に導けるよう、先輩が指導することが大切である。
- ・ 年をとったら何かを始めようと思うが、何をしたらいいかわからない。

#### その他の課題

- ・ 公園の夜間花火、犬の糞害、ゴミの投棄が後を絶たない。
- ・ 交通マナーの悪いドライバーが多い。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 組長などになったら、なるべく一軒ずつ回るようにし名前と顔を一致させ近所の繋がりを深めていくようにする。
- ・ 町内に住む外国人で日本語のわかる人に通訳してもらいコミュニケーションをはかれるようにする。
- ・ 新しく引っ越してきた住民に町内マップを配付する。
- ・ マンションに入居している人が参加したいと思える行事を実施し、ふれあい活動につなげる。
- ・ 回覧板でゴミ出しや犬の飼い方について適宜ルールを徹底する。
- ・ 防犯パトロールと挨拶運動を一体化させる。
- ・ ウォーキングや犬の散歩、買い物途中など、様々な機会に防犯ベストを着てもらおうよう働きかける。
- ・ パトロール中に独居老人の見守りもできる体制にする。
- ・ 魅力ある行事の開催のため、専門家の指導や研修を計画する。



二本木連合福祉委員会昼食会

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 町内公民館を住民の自由な居場所として開放する。



新たに完成した住吉町内会公民館

### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                              | 実施施策                                                                                                                                                                                                         |
|---|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 誰もが安心して暮らせ、地域で住民が孤立しない町づくりを支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外の町内会や老人クラブ等が取り組んでいる福祉・防犯・防災に関する情報を収集し、地区の各団体へ情報提供する。</li> <li>・日常生活の中で、無理なく取り組める見守りや支援活動を提案する。</li> <li>・住民での解決が難しい課題が発生した時に、関係機関を交えて課題に取り組む体制を作る。</li> </ul>     |
| 2 | 誰でも気軽に参加できる、ふれあいの場づくりを推進します。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンづくりの先進地区から学ぶ研修会を開催する。</li> <li>・サロンや勉強会を開催するためのマニュアルを作成し、各町内福祉委員会へ配付する。</li> <li>・住民が自由に出入りでき、悩みや困りごとの相談ができる居場所づくりに努める。</li> <li>・活動の担い手となる人材の発掘に取り組む。</li> </ul> |



地区社協総会後の認知症高齢者への理解をテーマにした寸劇



今池町の遊茶の会

### 4 計画策定の経過

福祉課題アンケート調査 5月～6月

地域会議の開催状況 6月30日 14人出席（男性11人、女性3人）

町内福祉委員会での会議の開催状況

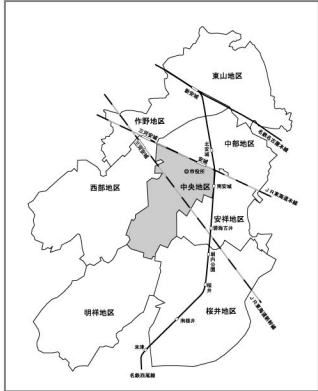
それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計5回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。

## 中央地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

中央地区は、JR安城駅からデンパークに至るまでの安城市のほぼ中央に位置し、15の町内会で構成されています。地区内はJR安城駅前の中心市街地と、商店街を取り囲むように立地する住宅地とでほぼ構成されており。農業地帯はデンパークを含む赤松町全域と横山町、大山町の一部のみです。



#### (2) 地区の現状



花ノ木町の路地裏の風景  
木琴道路と老朽化した木造家屋

駅前の商店街では、郊外への大手スーパーやチェーン店の進出により、昔のような活気を失い高齢化が進みつつありますが、周辺の住宅地ではマンション建設などが進み、若い人口が増え続けている町内もあります。区画整理事業が決定している末広町や花ノ木町では、道が狭い上に老朽化した木造住宅も多く、地震災害が起こったときには危険な地域となっています。これらの町内ではひとり暮らしの高齢者も多いため、高齢者の問題がクローズアップされる一方で、隣接する御幸、横山町、相生町などマンションの多い町内では、子どもの安全の問題などがクローズアップされています。

また、JR安城駅、名鉄南安城駅などの主要駅も地区内にあることから、車や自転車を狙った犯罪、ひったくりなどの犯罪も多くなっています。

#### 地域の状況

| 町内会名                                             | 町内福祉委員会名                                                                      |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 栄町、御幸、本町、本通り、朝日町、相生、末広、花ノ木、日の出、南町、百石、城南、大山、横山、赤松 | 御幸福祉委員会、本町福祉委員会、末広町福祉委員会、花ノ木福祉委員会、南町福祉委員会、百石町福祉委員会、城南町福祉委員会、横山町福祉委員会、赤松町福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 28,447 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 4,603 人(16.2%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 4,053 人(14.2%) |
| 2 世帯数          | 10,963 世帯      |
| 3 町内会数         | 15 町内会         |
| 4 要援護登録者数      | 534 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 314 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 184 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 36 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 320 人          |

#### 地域資源

|                        |
|------------------------|
| ・市役所(1)・保健所分室(1)       |
| ・保健センター(1)             |
| ・保育園(4)、幼稚園(3)、小学校(2)  |
| 中学校(1) 高校(3) 看護専門学校(1) |
| ・医療機関(19)、歯科(20)       |
| ・福祉センター(1)・社会福祉会館(1)   |
| ・シルバー人材センター(1)         |
| ・在宅介護支援センター(1)         |
| ・地域包括支援センター(1)         |
| ・高齢者生きがいセンター(1)        |
| ・介護サービス事業所(20)         |
| ・障害者サービス事業所(5)         |
| ・文化センター(1)・市民会館(1)     |
| ・公民館(2)                |

(平成20年10月1日現在)



### （３）町内福祉委員会の活動状況

地区内には15の町内会があり、南町、赤松町、花ノ木、御幸、城南町、本町、百石町、横山町、末広町には町内福祉委員会が設置されていますが、栄町、本通り、朝日町、相生町、日の出町、大山町は未設置です。

町内福祉委員会の立ち上げは、安城市内で最も遅れていますが、最近ではそれぞれの町の特性を活かした活動が展開されつつあります。特に災害時要援護者支援制度を活かした近隣での支援体制づくり、住民支え合いマップを活用したご近所福祉の推進、高層マンションでの防災訓練を通じたマンション住民との交流の推進など、他の地区には無い優れた取り組みもあり、学習活動、広報活動も充実しつつあります。



高層マンションでの防災訓練（御幸）

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 町内福祉委員会の会議が定期的に行われていない。
- ・ 町内福祉委員会がまだ無い。
- ・ 引きこもりがちなひとり暮らし高齢者への見守りや声掛けなどの支援が必要である。
- ・ 自閉症児の登下校時の見守りと特徴的な行動への対応に必要な、障害への理解と周知、対応の仕方が分からない。
- ・ 認知症高齢者の徘徊時の見守りが必要である。
- ・ 公園や自転車道に不審者が出る。
- ・ 自転車ドロ、車上狙いなどの犯罪が多い。
- ・ 渋滞する幹線道路から生活道路に入り込む通勤車両で、子ども達の通学路が危険な状態になっている。
- ・ 空き家、空き店舗への中学生などの出入りがあり心配である。
- ・ マンション、アパートの人との交流が少ない。
- ・ 外国人のゴミ出しのマナーの悪さや、地域住民との交流の無さが問題である。



町内福祉委員会での会議（城南町）

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 老々介護の夫婦への支援が必要である。
- ・ 緊急時に対応できるよう、ひとり暮らし高齢者の自宅のカギの保管方法の検討が必要である。
- ・ 高齢の親が障害のある子どもを介護している家庭があり、今後が心配である。
- ・ 障害児の通学の支援を町内福祉委員会として取り組んでいけるようにしたい。
- ・ 高齢や障害などにより片付けができず、家の中がゴミだらけの世帯への対応に困っている。
- ・ 悪徳商法の被害に遭いやすい昼間独居の高齢者への予防策についての検討が必要である。
- ・ 町内会のエリアと民生委員児童委員の担当エリアにずれがあり、災害時要援護者支援制度への対応に困る。



#### 連携のしくみに関する課題

- ・ 町内の世話焼きさんなど、活動者との連携が無い。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 町内福祉委員会のメンバーに女性が少ない。
- ・ 町内公民館が無く、自由に集まれる場がない。



町内福祉委員会での会議（花ノ木）

#### その他の課題

- ・ 中心市街地では、相次ぐスーパーの閉店、更生病院の移転、銭湯の廃業などにより、高齢者にとって不便な環境になってきている。
- ・ 住宅が増えて、空き地、緑が少なくなってきた。
- ・ 子どもの遊び場が足りない。
- ・ 高齢者が増えて、子どもが少なくなってきた。
- ・ 結婚していない長男が多い。
- ・ 古いマンションでは50歳代が多く、10年後が心配である。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 定年退職者等を中心に、町内お助け隊をつくる。
- ・ 住民支え合いマップをつくって、福祉課題と資源を発掘する。
- ・ 支え合いマップづくりを通して自然なかたちの助け合いを支援する。
- ・ ご近所の世話焼きさんを中心として、町内福祉委員会を構成する。
- ・ 町内住民のブロックごとの集まりや支え合いを支援する。
- ・ 町内行事に、高齢者や障害のある人などの要援護者も参加しやすいような配慮をする。
- ・ 防災訓練を住民総参加にしていく。
- ・ 外国人との交流の機会をつくる。（町内行事、防災訓練など）

#### 多様なサービスに関する取り組み

- ・ 町内に悩み事を話せる人、相談できる人、場所をつくっていく。

#### 連携のしくみに関する取り組み

- ・ 認知症高齢者の徘徊を見守るため、町内を超えた近隣町内でのネットワークをつくる。
- ・ 気になる人について、専門機関の職員と近所の人との話し合いをする。
- ・ 町内福祉委員会の中に、福祉課題への対応チームを立ち上げて、解決につなげる。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 町内で介護者どうしが集まり、話をしたり、息抜きをする場所をつくる。
- ・ 町内で障害や認知症などへの理解を広げるための、当事者を交えた懇談や話し合いの場をつくる。

### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                     | 実施施策                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 「助けて！」が言いやすい地域づくりを支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・助けられ上手をテーマにした勉強会等を開催する</li> <li>・広報紙等で、地域での「助けられ上手」の活動事例を紹介する。</li> <li>・町内福祉委員会などの地域での話し合いに参加し、地域の課題の収集に努める。</li> <li>・発見された福祉課題についての対応に共に取り組む。</li> <li>・地域で支えきれない要援護者について、ご近所から関係機関へ情報をつなぐ。</li> <li>・福祉だけでなく、防災・防犯・環境など町内のさまざまな活動を通して、助け合える地域づくりを進める。</li> </ul>               |
| 2 | 災害時に備えた「ご近所福祉」の推進を支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援者を中心とした見守り活動の必要性を啓発する。</li> <li>・住民支え合いマップづくりを通して、住民どうしの助け合いの実態把握に取り組む。</li> <li>・発見された福祉課題についての対応に共に取り組む。</li> <li>・町内の組・班などの小ブロックでの住民どうしの助け合いが進むよう活動事例の紹介や助言をする。</li> <li>・災害時の支援を想定して、町内のさまざまな行事の中に、福祉・防災の視点や活動を盛り込めるように啓発する。</li> <li>・地域での活動に対し、必要に応じ補助金を交付する。</li> </ul> |



地域福祉活動勉強会の様子

（災害時要援護者支援のための  
日頃の活動を寸劇で表現）



住民支え合いマップの作成（末広町）

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月21日 73人出席（男性50、女性23）

7月10日 68人出席（男性49、女性19）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計35回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。

# ■ 安祥地区

## 1 地区の概況

### (1) 地区の位置、地域特性など

安城市の中心部の東側に位置する安祥地区は、9つの町内会で構成されています。安城発祥の地と言われるような昔からの住民が多い地域と、集合住宅が立ち並ぶ地域が混在しています。

昔からの地域では田畑が広がり、近隣住民は皆顔見知りで三世代同居も多く、古くからの伝統や慣習が引き継がれています。一方、集合住宅の地域では、高齢者世帯、ひとり暮らし高齢者、ひとり親家庭、独身世帯、外国人など住民も様々で、隣近所でもあまりお互いを知らないといった状況になってきています。

### (2) 地区の現状



昔ながらの東尾町内の風景

昔からの町内でもライフスタイルの変化や新住民の増加など、町内の様子も大きく変わってきています。

地区内は比較的交通も便利で、大型店舗や総合病院も近く、住み良い地区ですが、子どもや高齢者、障害のある人の目線で考えてみると、さまざまな課題があります。

集合住宅などでは、住民どうしの結びつきが弱いことが、マナーの悪さや犯罪を監視する力の弱さ、災害時の不安などにつながっており、また、古く



高層の集合住宅（古井住宅）

### 地域の状況

| 町内会名                            | 町内福祉委員会名                                                                        |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 上条、土器田、西尾、秋葉、東尾、河野、古井、古井新町、古井住宅 | 上条町福祉委員会、土器田福祉委員会、西尾福祉委員会、秋葉福祉委員会、東尾福祉委員会、河野町福祉委員会、古井町福祉委員会、古井新町福祉委員会、古井住宅福祉委員会 |

### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 19,361 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 3,298 人(17.0%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 3,104 人(16.0%) |
| 2 世帯数          | 7,002 世帯       |
| 3 町内会数         | 9 町内会          |
| 4 要援護登録者数      | 474 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 281 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 159 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 34 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 277 人          |

### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・保育園(2)、幼稚園(1)、小学校(2) |
| 中学校(1)・看護専門学校(1)      |
| ・医療機関(7)、歯科(7)        |
| ・在宅介護支援センター(2)        |
| ・介護老人保健施設(2)          |
| ・介護サービス事業所(19)        |
| ・障害者サービス事業所(1)        |
| ・公民館(1)               |
|                       |
|                       |

(平成20年10月1日現在)

### (3) 町内福祉委員会の活動状況



古井新町の介護教室

安祥地区の各町内福祉委員会では、様々な活動が繰り広げられています。町内福祉委員会を立ち上げてすでに10年以上が経過している町内や、一昨年立ち上げたばかりの町内までさまざまで、また、その活動スタイルもそれぞれ異なります。

町内の高齢者を対象にした全体的な活動を活発に行っている町、個別支援を多く行っている町、住民の生活課題から取り組み始めた町など、その町内に合った活動をそれぞれが模索しつつ進めています。

### (4) 地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 高齢者など歩いて生活している住民にとって、広い道路や地下道が危険、運べないから重い物が買えない、生活道路の交通量が増えて怖くて歩けないなど日常生活での困りごとがある。
- ・ 町内会未加入、新旧住民の交流不足、老人クラブや子ども会活動の低迷など、住民どうしのつながりが希薄化している。
- ・ 空き巣や車上ねらい、器物損壊などの犯罪が増加している。
- ・ 一部の外国人による迷惑行為（ゴミ出し、夜間の騒音、違法駐車など）に困っている。
- ・ 定例的に会議を開催していない。

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ ゴミ出しなどの日常生活の支援を必要とする障害のある人がいる。
- ・ 近隣に騒ぎを起こす精神障害のある人への対応に困っている。
- ・ 一人暮らし高齢者の孤独死の予防策が必要である。
- ・ エレベーターのない団地の上層階に住む高齢者がゴミ出しや買い物などの支援を必要としている。
- ・ 老々介護で、夫が認知症の妻を虐待していると思われる家庭への支援がされていない。
- ・ 親が子どもの面倒をみない育児放棄の家庭への支援がされていない。
- ・ 引きこもりの息子が老いた親を虐待していると思われる場合の対応が難しい。



地域会議の様子

#### 連携のしくみに関する課題

- ・ 今まであまり民生委員児童委員と話す機会もなく、ほとんど連携してこなかった。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 町内集会所などがバリアフリーになっていない。
- ・ 町内会長が毎年代わるなど、リーダーシップをとれる人がいない。
- ・ あて職以外の実動メンバーが少ない。



### その他の課題

- ・ 外部から持ち込まれたゴミの不法投棄が多い。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 高齢者や障害のある人のために、近隣の商店がきめ細かいサービスを行っていたり、近所の人を手助けしている。こういった配慮をもっと広げたい。
- ・ あらゆる年代の住民が参加する防災体験学習の機会を引き続き設けていく。
- ・ 高齢者が町内の行事などで急に倒れた時に備えて、救急車が来るまでの間の救急体制を町内で整える。
- ・ 住民どうしのつながりがまだできていないので、住民支え合いマップづくりを通して、生活上の課題を見つけるなど、支えあう町内作りをすすめる。
- ・ 町内行事や防災訓練などが、障害のある人などに配慮した活動になっていなかったため、内容や実施方法を変えていく。
- ・ 町内福祉委員会は立ち上がっているが、町内の生活・福祉課題について話し合いの場を設けてこなかったため、これから定例的に話し合う。



町内福祉委員会での会議（上条）

### 多様なサービスに関する取り組み

- ・ サロン活動において、参加者の困りごとなどをていねいに聞き取って、援助していく。

### 連携のしくみに関する取り組み

- ・ 民生委員児童委員とつながりを深めて、福祉課題に取り組む。
- ・ 通学パトロールに取り組んでいるメンバーは毎日町内を歩いているので、町内の他の困りごとにも活動を広げてもらう。



町内福祉委員会での会議（秋葉）

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 住民どうしが顔を合わす機会を多くし、定年後の男性の活動拠点とする。
- ・ 高齢者の閉じこもり予防の場や子どもの見守り活動の場として、もっと町内の集会所を開放し活用する。
- ・ 町内の特技をもっている人材を発掘して活動に参加してもらう。
- ・ 趣味の会などの自主グループに、子どもや高齢者、障害のある人の活動に協力してもらう。



### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                                     | 実施施策                                                                                                                                                                                                          |
|---|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 地域におけるさまざまな世代の住民どうしの交流を促進し、助け合い活動を支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙などで交流・助け合い活動の事例を紹介し、啓発する。</li> <li>・サロン活動先進地の視察をしたり、研修を行う。</li> <li>・ふれあいサロンなど住民どうしが顔を合わす機会を増やしていけるよう、助言する。</li> <li>・サロン参加者の困りごとから、助け合いにつなげていけるよう啓発する。</li> </ul> |
| 2 | 住民の福祉課題解決に取り組む町内福祉委員会活動を支援します。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員児童委員と連携し、地域での一人ひとりの困りごとに対応できる町内福祉委員会活動に共に取り組む。</li> <li>・児童や高齢者、DVなど虐待をテーマにした勉強会を開催する。</li> </ul>                                                                 |



車いす体験学習会（古井住宅）



住民による子どもの毎日の見守り  
(西尾)

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月27日 55人出席（男性30 女性25）

7月10日 55人出席（男性32 女性23）

町内福祉委員会での会議の開催状況

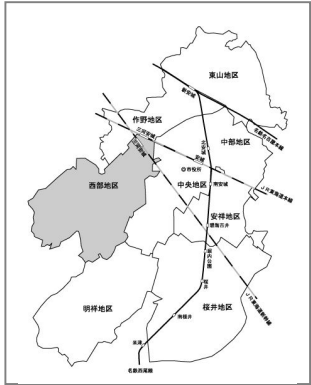
それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計9回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。

## ■ 西部地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

西部地区は、安城市の西部に位置し、5つの町内会で構成されています。地区内は大部分が緑豊かな田園地帯ですが、雇用促進住宅から始まった公営住宅や、JR 新幹線三河安城駅周辺のマンション街など、高層住宅もしだいに増えてきています。



#### (2) 地区の現状



緑豊かな榎前町のせせらぎ

地区内には、雇用促進住宅から始まった下管池、農村地域の旧集落と、三河安城駅周辺のマンション街を有する箕輪町、1町1小学校区の大きな農村地域の高棚町、旧本村と明治時代以降の開拓地区とを有する農村地域の福釜町、小さく一つにまとまった農村地域の榎前町があり、それぞれに固有の特色があります。

環境面としては、農村集落内の住宅密集による道路の狭さ、



三河安城駅前のマンション群

高層マンションの住民どうしのつながりの希薄さなど、多数の課題があります。

#### 地域の状況

| 町内会名            | 町内福祉委員会名                                     |
|-----------------|----------------------------------------------|
| 下管池、箕輪、高棚、福釜、榎前 | 下管池福祉委員会、箕輪町福祉委員会、高棚町福祉委員会、福釜町福祉委員会、榎前町福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 16,493 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 2,844 人(17.2%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 2,694 人(16.3%) |
| 2 世帯数          | 5,364 世帯       |
| 3 町内会数         | 5 町内会          |
| 4 要援護登録者数      | 237 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 105 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 102 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 30 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 104 人          |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・保育園(4)、幼稚園(1)、小学校(3) |
| 中学校(1)                |
| ・医療機関(9)、歯科(5)        |
| ・福祉センター(1)            |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・特別養護老人ホーム(1)         |
| ・有料老人ホーム(1)           |
| ・介護サービス事業所(24)        |
| ・障害者サービス事業所(3)        |
| ・公民館(1)               |

(平成 20 年 10 月 1 日現在)

### （３）町内福祉委員会の活動状況

西部地区の下管池、箕輪町、高棚町、福釜町、榎前町の５町内会は、すべてに町内福祉委員会が設置され、各町内福祉委員会の設置から１０年以上たっています。

地区内では、ふれあい交流活動が盛んに行われており、住民の信頼関係づくりや介護予防につながっています。いくつかの町内福祉委員会では、災害時要援護者支援制度を踏まえて、福祉・防災支えあいマップづくりの取り組みや個別支援活動などの話し合いも始まっています。

また、三河安城駅周辺のマンション街では、マンションママのネットワークが生まれ、防災・防犯・福祉・子育てを仲間どうしの助け合いと、同じ町内の住民と連携して進める取り組みが始まりました。榎前町では、ボランティアグループ、町内会役員ＯＢ、中学生、その他町内会の各種団体を取り込んで、福祉・防災・環境と一体となった取り組みをしています。



マンションママの交流会

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 高層階向けの防災訓練を行っていないので、住民の避難面で心配である。
- ・ マンションの住民どうしつながりがなく、顔がみえない。
- ・ 福祉課題の把握ができていない。
- ・ 町内福祉委員会の存在が周知されていなく、住民の意識付けも不十分である。
- ・ 町内福祉委員会での話し合いが行われていない。



高棚町子ども見守りネットワーク会議

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 認知症の人等を介護する家族への支援がされていない。
- ・ ひとり暮らし高齢者、昼間ひとり暮らし高齢者、障害のある人への日常の見守り（安否確認）、支援（電球交換、遺品の整理、ごみ出し、買いもの手伝い、庭木の剪定等）が必要である。
- ・ 社会資源の把握ができてなく、地域福祉活動に生かされていない。

#### 連携のしくみに関する課題

- ・ 町内福祉委員会と民生委員児童委員との連携がとれていない。

#### その他の課題

- ・ 生活道路が狭く、通勤時に入り込む車で、通学路が危険な状態である。
- ・ 通学路に地下道があるなど、児童生徒の登下校時の安全面が不安である。
- ・ 集落が密集しているので、災害時、火災発生時が心配である。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 町内福祉委員会の活動の必要性を示し、町内福祉委員会の話し合いの場を作る。
- ・ 障害を隠さない啓発活動を行う。
- ・ 助けられ上手講座を定期的を開催する。
- ・ 住民支え合いマップを作成して、福祉課題を把握する。
- ・ 災害時要援護者支援制度未登録者への町内独自調査を行う。
- ・ 町内見守りのネットワーク、システムづくりを行う。
- ・ 障害児・者の参加する防災訓練を行う。
- ・ 認知症家族の会づくりや、認知症を隠さない啓発活動を行う。
- ・ ひとり暮らし高齢者の会をつくる。



町内福祉委員会での会議（箕輪町）

### 連携のしくみに関する取り組み

- ・ 隣近所、団地住民、町内福祉委員会、民生委員児童委員、専門機関のネットワークや見守りネットワークをつくる。
- ・ 人や拠点など、新たな社会資源を発掘し、活動や活動者との連携を図る。

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ ゴミだしボランティアを募集する。（一般住民、中学生等）
- ・ 障害のある住民への支援チームづくりを進める。



コスモス畑での昼食会（福釜町）



保育園でのサロン（榎前町）



### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                       | 実施施策                                                                                                                                                                    |
|---|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 各町内の特色や長所を生かした福祉活動を支援します。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民支えあいマップづくりを通じた隣近所での助け合いの状況の実態把握に取り組む。</li> <li>・地域の生活・福祉課題を住民と共に取り組む。</li> <li>・町内の社会資源の発掘の啓発と発掘された資源の活用を住民と共に進める。</li> </ul> |
| 2 | 誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの困りごとについて把握する取り組みを行う。</li> <li>・ご近所での助け合い活動事例紹介や助言をする。</li> <li>・災害時要援護者支援制度の周知啓発をし、町内の班での見守り体制につなぐ取り組みを共に進める。</li> </ul>  |

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月20日 27人出席（男性19、女性8）

7月11日 29人出席（男性20、女性9）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計5回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。

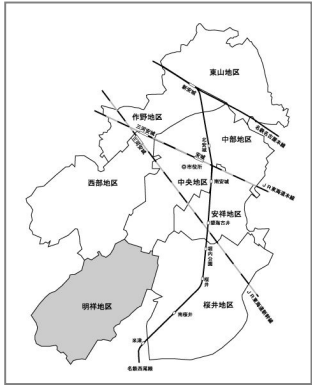
## 明祥地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

安城市の南西に位置する明祥地区は、5つの町内会で構成されています。田畑や川に囲まれ、緑豊かな環境で、米やイチジク、梨などの栽培が盛んな農業地域です。安城市が工場誘致を行ったため工場地帯もあります。

古くは、明治村という1つの村だったことから、地区内のつながりも深く、住民どうしの関わり合いが多い地域です。3世代世帯が多く、伝統や慣習が大事にされ、引き継がれています。



#### (2) 地区の現状

明祥地区では、地区内の大部分が市街化調整区域であるため、新しい家が建ちにくく、人口の流入が少なく、高齢化率が高くなるという傾向にあります。高齢者は、田畑の手入れやお墓参りなどを日課や楽しみとしている人が多く、比較的元気な方が多く見られます。さらに、ご近所のつながりも深いために、お互いの見守り活動が、生活の中に自然にとけ込んでいます。



田園風景が続く明祥地区

生活環境面では、大通りから集落に入ると、道路はとても狭く、救急車や消防車が進入できないところも多数あります。その他、歩道が整備されていない道路が多くあるために、登下校時の子どもや高齢者、障害のある人にとっては危険な箇所がみられます。

#### 地域の状況

| 町内会名            | 町内福祉委員会名                                      |
|-----------------|-----------------------------------------------|
| 石井、和泉、東端、根崎、城ヶ入 | 石井町福祉委員会、和泉町福祉委員会、東端町福祉委員会、根崎町福祉委員会、城ヶ入町福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 13,032 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 1,949 人(15.0%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 2,455 人(18.8%) |
| 2 世帯数          | 3,839 世帯       |
| 3 町内会数         | 5 町内会          |
| 4 要援護登録者数      | 250 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 119 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 103 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 28 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 94 人           |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・市役所出張所(1)            |
| ・保育園(4)、小学校(2)、中学校(1) |
| ・医療機関(1)、歯科(4)        |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・養護老人ホーム(1)           |
| ・介護サービス事業所(4)         |
| ・障害者サービス事業所(2)        |
| ・知的障害児通園施設(1)         |
| ・障害者生活介護事業所(1)        |
| ・公民館(1)               |

(平成20年10月1日現在)

### （３）町内福祉委員会の活動状況

地区内には5つの町内会があり、その全てに町内福祉委員会が設置されており、6～9年が経過しています。地域における課題は、それぞれの町内ごとに異なっているため、それぞれが優先順位を決めて取り組んでいます。

町内の高齢者や子どもを対象としたふれあい活動を行っている町、子どもの見守り活動に重点を置いている町、町内の人材を活かした活動を行っている町、地域の安全・健康を中心に考え活動を行っている町など、その町内にあった活動をそれぞれが地域の実情にあわせて模索し、検討を重ねながら進めている状況です。



介護予防にも役立つ、のびのび体操クラブ（和泉町）

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 子どもの下校時の危険性が高い。（防犯面、交通面）
- ・ 生活道路が、車やトラックの通り道・抜け道となっており、危険である。
- ・ 歩道や街灯が少なく、不安な場所が多い。
- ・ 要援護者（認知症高齢者や障害のある人）の現状把握がしづかりなされていない。
- ・ 外国人などのゴミ出しマナーの悪さが問題である。
- ・ 町内行事やその他関連事業が多く、それをこなすだけでも大変である。
- ・ 人通りの少ないところや、公園などで不審者が見られる。



地域会議の様子（根崎町）

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 老々介護の夫婦への支援がされていない。
- ・ 家族が働きに行っている間、昼間にひとりになってしまう子どもや高齢者に対して、災害時などの不安がある。
- ・ 認知症高齢者の徘徊への見守り支援が必要である。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 若い世代が少なく、次の世代の担い手がいない。（役員にのみ負担がかかっている）
- ・ 若い男性の参加、また女性の参加が少ない。

#### その他の課題

- ・ 土地が市街化調整区域であるために、新しい家が建てられず、若い世代が増えにくい。
- ・ 男性独身者の増加が心配である。
- ・ 交通手段が少なく、車がないと不便な環境である。
- ・ 大通りから一本入ると狭い道が多く、災害時における場所の確保が難しい。
- ・ 消防車や救急車の進入が不可能な道路がある。

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 「動ける人」を含んだ組織体制づくりを進める。
- ・ 現在ある見守りネットワークを強化する。
- ・ 無理をしない、さりげない見守り活動を継続する。（寂しくさせない工夫）
- ・ 行事での工夫をする。
  - 呼びかけに工夫をこらす。  
（個別配布や結果報告など）
  - 日時や場所の設定に、みんなが参加しやすいような工夫を行う。
  - 「行きたいけれど」の人も来てもらえるような環境づくりを進める。  
（来たときの楽しみがあるようにする）
  - 高齢者から子どもまで楽しめるような行事設定にする。
  - 自力で来られない人への送迎サービスをする。
- ・ 認知症高齢者、ひとり暮らし高齢者へのさりげない見守りを行う。
- ・ 認知症に対する理解を広め、当事者（家族）の意識改革を進める。



町内福祉委員会での会議（石井町）

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 役員OBに呼びかけるなどして、新しい人材の発掘につなげる。
- ・ 知識や腕を活かした人材の登用を進める。



よっといでんクラブ  
地域の達人が活躍（東端町）



町内福祉委員会による  
子ども見守り活動（城ヶ入町）



### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

| 活動目標                                | 実施施策                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 町内の特色を活かした活力ある地域福祉活動の推進を行います。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の生活・福祉課題や活動のあり方、地域住民の困り事について話し合える場所や機会づくりに共に取り組む。</li> <li>・福祉委員やボランティア、民生委員児童委員、町内会など関係者が連携を取りやすい雰囲気・環境づくりを行う。</li> <li>・同じ立場の人の情報交換会や座談会などを開催する。</li> </ul> |
| 福祉についての理解を広め、誰もが参加しやすい福祉活動の推進を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の担い手をさまざまな機会を通して発掘する。</li> <li>・地域住民どうしの横のつながりの強化に共に取り組む。</li> <li>・広報紙などにより、地区内の福祉情報や活動事例を紹介し、福祉の啓発を行う。</li> </ul>                                          |

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月26日 35人出席（男性23、女性12）

7月17日 37人出席（男性28、女性 9）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計5回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。

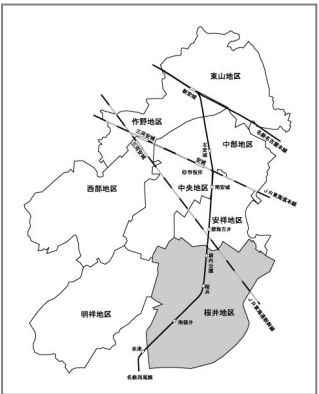
## 桜井地区

### 1 地区の概況

#### (1) 地区の位置、地域特性など

桜井地区は、安城市の南東部に位置し、東には矢作川が流れ、岡崎市、西尾市との市境となっています。12の町内会で構成され、昭和42年に安城市に合併するまでは独立した町であったこともあり、町内会は連合町内会としてまとまりのある組織体制となっています。

また、町内会が更にいくつかの集落単位に分かれ、昔ながらの付き合いやきめ細かな生活形態が受け継がれているところもあります。



#### (2) 地区の現状



広がる田園風景

昔からの肥沃な農村地帯であり、農業を継承し古くから住み続けている住民も多くみられます。また、親戚どうしや近隣住民どうしの日常的なつながりが自然と保たれており、穏やかに暮らせる地域が数多く残っています。

一方では、ここ数年の桜井駅周辺の区画整理や大型店舗の進出に伴い、新しい住民の出入りも多くなり地域の様子も変化しつつあります。また、高齢化や核家族化と共に家族関係にも変化が見られることなどに伴い、住民どうしのつながりの希薄化、犯罪の増加等の課題が浮上してきており、従来からの安心で穏やかな生活が脅かされつつあります。



名鉄高架と新しい店舗が立ち並ぶ駅前

#### 地域の状況

| 町内会名                                     | 町内福祉委員会名                                                                                              |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 藤野、桜井北、堀内、城山、城向、桜井西町、東町、姫小川、鎗出、鹿乗、小川、三ツ川 | 藤野福祉委員会、桜井北福祉委員会、堀内福祉委員会、城山福祉委員会、城向福祉委員会、桜井西町福祉委員会、東町福祉委員会、姫小川福祉委員会、鎗出福祉委員会、鹿乗福祉委員会、小川町福祉委員会、三ツ川福祉委員会 |

#### 人口や世帯数等

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 人口           | 19,588 人       |
| (1) 14歳以下人口と割合 | 2,902 人(14.8%) |
| (2) 65歳以上人口と割合 | 3,655 人(18.7%) |
| 2 世帯数          | 6,310 世帯       |
| 3 町内会数         | 12 町内会         |
| 4 要援護登録者数      | 278 人          |
| (1) 要援護等高齢者数   | 155 人          |
| (2) 重度身体障害者数   | 103 人          |
| (3) 重度知的障害者数   | 20 人           |
| 5 ひとり暮らし高齢者数   | 146 人          |

#### 地域資源

|                       |
|-----------------------|
| ・市役所出張所(1)            |
| ・保育園(4)、幼稚園(1)、小学校(2) |
| 中学校(1)、高校(1)          |
| ・医療機関(11)、歯科(7)       |
| ・福祉センター(1)            |
| ・在宅介護支援センター(1)        |
| ・特別養護老人ホーム(1)         |
| ・軽費老人ホーム(1)           |
| ・介護サービス事業所(10)        |
| ・障害者サービス事業所(5)        |
| ・障害者入所更生施設(1)         |
| ・公民館(1)               |

### （３）町内福祉委員会の活動状況

１２町内会全てに町内福祉委員会が設置され、うち７町内福祉委員会においては専任委員長が配置されています。町内福祉委員会の立ち上げは安城市内で最も早く、活発な取り組みが続けられています。

活動内容は、ふれあい活動、学習活動、広報活動が主であり、中でも、ふれあい活動は、各々の町内の実情に合わせ様々な工夫がなされています。

また、災害時要援護者支援制度をふまえ、要援護者の実態把握や見守り活動にも取り組んでいる委員会もあります。



町内福祉委員会での会議（堀内）

### （４）地域会議からの声（各町内福祉委員会の意見）

#### 地域活動の推進に関する課題

- ・ 街灯がないため、日没となると通学路が暗くなり、不審者も出て危険である。
- ・ 車や自転車泥棒・ガソリン泥棒・スイカ泥棒・空き巣等が多くなり不安である。
- ・ 町内会に加入できる状況でない家庭（健康面・経済面・介護面等の理由）が加入をやめてしまうため、その家庭の状況把握が更に困難になっている。
- ・ 高齢等で身体に不自由が生じ、町内の付き合い（草取り・清掃等）が困難になってきた方への配慮・対応がされていない。
- ・ 新しい住民が増えつつある町内では、旧集落住民と新入住民との相互理解やつながりづくりのための交流の機会・場づくりが必要である。
- ・ 独居であるが、本人も親族も地域とのかかわりを拒否される方への対応に困っている。
- ・ 福祉委員間での話し合いの場や情報交換の機会が持たれて来なかった。
- ・ 町内での集落においては、運営が全て総代にのしかかってしまい、総代と民生委員児童委員のみでの対応となり負担が大きい。
- ・ 家に閉じこもらないよう男性を引っ張り出す「男の福祉」対策の検討が必要である。

#### 多様なサービスに関する課題

- ・ 高齢者のみ世帯・障害のある人がみえる世帯・介護が必要な世帯・ひとり親家庭・閉じこもり家庭等の実態把握が十分されていない。
- ・ 地域住民の福祉課題における、日常的及び災害時をも含めた地域支援の体制づくりが必要である。
- ・ 災害時要援護者支援制度の活用と、支援者の見直しが必要である。

#### 連携のしくみに関する課題

- ・ サロンはふれあいの場であると同時に、情報交換や困りごとの相談及び発見につなげられる機会・場であることが必要だが、そうっていない。

#### 人材づくり・拠点づくりに関する課題

- ・ 福祉委員が町内役員との兼務が多く、女性や中年層など町内での実働的人材が入っていない。そのため町内行事などで忙しすぎて、福祉活動にまで手がまわらない。

### その他の課題

- ・ 矢作川と鹿乗川流域の町内では、水害や大地震での液状化現象が心配である。
- ・ 店舗・医療機関・金融機関等が全て駅周辺に集中しており、農村地域からは非常に遠く不便。特に、車に乗れない高齢者には辛い。
- ・ 交通量が急増し、狭い道路までもが抜け道として利用され、危険な状態である。



町内福祉委員会での会議（城向）

## 2 今後に向けての取り組み（各町内福祉委員会の意見）

### 地域活動の推進に関する取り組み

- ・ 町内会に加入していれば町内での存在を知ってもらえ、困った時や災害時にも支援がスムーズに受けられるという利点を伝えていく。
- ・ 防災訓練を日頃の町内活動や町内福祉委員会活動の中に取り入れていく。
- ・ 防災訓練は要援護者への支援・対応・参加へも配慮したものとしていく。
- ・ 災害時要援護者支援制度において、登録台帳の更新及び支援者が近隣住民になっているかの確認と見直しをしていく。
- ・ 福祉委員間での話し合いや情報交換の機会を十分に持ち、「町内で様々な支援が必要な方の実態把握や見守り・支援」、及び「町内での福祉課題についての相談や対応」にまで力を注いでいける体制にしていく。
- ・ 町内福祉委員会の取り組みの視点を、本当に必要なところ（行事に来られない人・事情のある人への配慮や支援及び福祉課題への対応）に変える。

### 連携のしくみに関する取り組み

- ・ 町内行事やサロン活動に参加されない方に対しては、その理由についても把握に努め、実情に応じた個別支援を関係機関とも検討する。
- ・ ご近所どうしが日頃から気にかけて合うという意識づくりに力を注ぎ、異変があったらまず組長や総代に連絡してもらい、そこから町内福祉委員会に情報を伝える体制を作っていく。

### 人材づくり・拠点づくりに関する取り組み

- ・ 認知症サポーター講習会の開催により、認知症に対する正しい理解と適切な対応の仕方を町内全体として学習し、支援体制を整えていく。
- ・ 町内福祉委員会の構成を、町内役員のみならず、各組から地域福祉活動にふさわしい人材を発掘し、任期を問わずに取り組める体制に変えていくことで、実働力ある組織にしていく。



### 3 地区社協の町内福祉委員会支援計画

|   | 活動目標                                | 実施施策                                                                                                                                                                                          |
|---|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 住民の困りごとにも対処できる町内福祉委員会活動を支援します。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の源である実態把握や情報の共有が十分行われるよう働きかける。</li> <li>・各町内福祉委員会での困りごとが集約しやすい環境づくりに努める。</li> <li>・発見された困りごとについて、解決に向けて共に対応したり、専門機関へ情報をつなぐ。</li> </ul>              |
| 2 | 災害時にも備え、ご近所での日常的な助け合いが促進されるよう支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者の情報が常に最新のものになっているように、また情報管理が確実に行われるように徹底を図る。</li> <li>・支援者と要援護者が、互いに気にかけて合える機会づくりを促す。</li> <li>・健常者のみならず、要援護者への配慮や支援がやりやすくなるよう啓発する。</li> </ul> |



住民総参加の防災訓練（小川町天神）



介護者のつどい（地区社協主催）

### 4 計画策定の経過

地域会議の開催状況 6月21日 127人出席（男性100、女性27）

7月12日 124人出席（男性 87、女性37）

町内福祉委員会での会議の開催状況

それぞれの町内において、計画策定に向けての会議が計25回開催され、地域福祉の推進のため、町内の状況にあった取り組み計画が話し合われました。